

国 語

1 教科について

昨年度の課題

- ① 既習の漢字を読んだり書いたりすることができない。
- ② 登場人物の心情をとらえ、どうしてそのような気持ちになったのかの理由を書くことができていない。段落に書いてある内容をとらえ、段落相互の関係を考え、文章を正しく読むことができない。

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- ① 新出漢字だけでなく、定期的に既習漢字の練習をしたり、確認したりする。
- ② 物語文を読むときには、場面の様子や人物の気持ちを表す言葉に線を引いたり、感じたことを書き込んだりするように指導する。

「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	75.0%
市平均	74.0%
学校平均	71.4%

領域ごとの平均通過率 (%)

	聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
学校	73.8	66.7	65.9	75.9
市	78.5	73.6	67.9	76.6
県	79.0	75.4	67.6	78.3

重点課題

- ◎話の要点をとらえながら、大切なことを落とさずに聞きとることができていない。
- ◎既習の漢字やローマ字を読んだり書いたりすることができていない。
- ◎自分の考えが明確になるように、段落を意識して書くことができていない。
- ◎文と文のつながりや段落相互の関係を考えながら文章を正しく読み取ることができていない。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① いろいろな場面で、話の要点を意識しながら聞くようにさせる。また、メモの取り方の指導をしていく。
- ② 帯時間などを利用して、既習漢字やローマ字の復習をしたり、確認のテストを定期的に行ったりする。
- ③ 自分の書きたい事をはっきりさせてから書くようにさせる。また、「はじめ・中・おわり」などの文章構成を意識づける指導をしていく。
- ④ 説明文を読むときは、まず結論を確認し、段落の構成をおさえるようにする。さらに、自分で要点を見つけ、段落相互の関係を考えることができるような指導をしていく。

算 数

昨年度の課題

- ① 量と測定領域において、面積の任意単位のいくつ分と考えて比較することができていない。また、かさの単位（ミリリットル）を理解できていない児童が多い。
- ② 図形の領域において、正三角形の定義を活用できていない。
- ③ 思考力を伴う問題が全体的にできていない。特に、面積や数量関係領域の伴って変わる2つの数量関係の通過率は低い。

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- ① TTによる学習形態や少人数指導形態を活用して、一人ひとりに合ったきめ細やかな指導を進める。また、具体物を利用し、単位をイメージしやすくする。
- ② 図形の面積においては、紙を切ったり折ったりするなどの具体的な操作を取り入れて定着を図る。
- ③ 問題文を理解し、しっかり考えることができるようにする。そのために、問題文をしっかり読みながら考えることに慣れさせる。また、問題文を絵や図に表したり、数直線に表したりしながら思考することができるようにする。

「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	79.3	%
市平均	78.4	%
学校平均	79.8	%

領域ごとの平均通過率 (%)

	数と計算	量と測定	図形	数量関係
学校	83.4	72.7	80.1	79.9
市	82.5	70.9	77.2	81.0
県	84.0	72.8	79.7	81.2

重点課題

- ◎ 数と計算の領域では、分数の分子、分母の意味が十分に理解できていない。
- ◎ 量と測定の領域では、かさや面積の単位を適切に選択することができていない。また、複合図形の面積を、操作して計算することができていない。
- ◎ 数量関係の領域では、()を用いて、一つの式にまとめて計算することができていない。また、伴って変わる数量の規則性を読み取って計算をすることができない。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 数量や図形の意味を実感的に理解できるように、具体物を用いた算数的活動を学習に取り入れるようにする。
- ② 算数科で身に付けた知識や技能を、日常生活や他教科の学習に活用していくことができるように、数や式、図、表、グラフなどを用いた思考や表現の活動を設けていく。
- ③ 前学年の同じ領域の内容を学習に取り入れ、学び直しの機会を設けながら、学習の系統性を重視した授業作りに努める。
- ④ 学習の課題に対して、根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考えられるように支援をする。また、様々な考えを出し合いながら、お互いに学び合う授業の雰囲気作りをする。

2 意識調査 生活・学習 （「基礎・基本」：学校質問紙，児童質問紙）

改善したい点	今後の具体的な取組の内容
◎ 自分のよさは、まわりの人から認められていると思っている児童は県平均と比べてあまり差はないが、自分には、よいところがあると思っている児童が県平均に比べて6%以上下回っている。 ◎ 外に出て遊んだり、運動をしたりして体を動かしているという児童が県平均に比べて7%以上低い。 ◎ ものごとを解決する時にたぶんこうではないかと予想しているという児童やなぜ、そうなるのか、理由をつけて話していると答えた児童が県平均に比べて数値が低い。	◎ 児童ひとり一人の生活の様子や学習の様子を見取り、具体的に評価できることをその都度評価していく。また、児童同士でお互いの良いところを評価しあう場を設定し、児童が自己肯定感を持てるようにしていく。 ◎ 児童が外で遊ぶように声をかける。全員遊びを定期的に行い、教師も参加できるときには参加するようにし、体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。 ◎ 授業の中で、予想する時間や考える時間を確保し、発表させるというサイクルを続けることで、児童に予想するということを身につけさせる。発表の時には、なぜそのように考えたのか理由を述べさせることで、理由をつけて話す事を習慣化する。

（2）教科 （「基礎・基本」：学校質問紙，児童質問紙）

教科	児童の回答と学校の指導についての課題	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎ 日記や作文、感想文を書かせるときに、段落を意識させたり、初め、中、終わりを意識させたりする時間が少ない。 ◎ 読んだり、書いたりするときや、話したり聞いたりするとき、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「何を」、「なぜそうしたか」、「どのように」について注意していると答えた児童が57.3%と県平均より下回っている。	◎ 書く授業の中で、段落を意識して書かせたり、だれが、いつ、どこで、何を、なぜそうしたか、どのようにしたのかを意識して書かせたりする。また、読みの授業でも段落ごとに書いてあることをまとめる時間をとる。 ◎ 授業の中で、意識して「だれが」、「いつ」、「どこで」、「何を」、「なぜそうしたのか」、「どのように」の使い方を示していく。 ◎ 授業や家庭学習で日記や作文を書く機会を増やす。
算数	◎ 図形を観察するときは、見た目だけではなく、辺の長さや角の大きさにも気をつけているという児童が県平均に比べて6%下回っている。 ◎ 授業のなかで、実際に児童が自分で図形をかいたり、作ったりする活動が少ない。 ◎ 算数の授業がよく分かりますと答えた児童は県平均より5%以上下まわっている。	◎ 具体物を提示するだけでなく、実際に児童に触らせたり、どのようになっているのかをノートにかかせたりする時間をとるように心がける。 ◎ 算数を少人数で学習するほうがわかりやすいと感じている児童が県平均に比べて多いので、少人数による授業など、形態を工夫する。 ◎ 児童の学力定着のため、理解度に応じた計算プリントや問題プリントを用意する。児童が自分で解くことのできる問題に取り組みさせることで、基礎的な学力を身につけさせ、苦手意識をなくしていく。

参考様式 5

指導改善のための実施スケジュール

